

C-39 モアレ法による衣服ゆとり量の測定 オ2報

帝塚山学院短大 ○加藤美紀 寺田佳代子 金森悦子 南日朋子
田中道一

目的 前報において 当研究室が大日本スクリーンの協力を得て開発した ガラス・スクリーンのモアレ縞撮影装置を用い 非着用時並びにゆとり量の異なる5種類の衣服を着用した時の 静止時並びに動作時のモアレ撮影を行い 撮影によって得た1/2葉のモアレの形状から ゆとり量のあり方について報告したが、今回はこれらモアレの形状を円形処理方法により解析し ゆとり量による衣服の間隙量と同時に、動作適合度との関連について検討を加えた。

方法 被験者には 標準的寸法のモデルを選んだ。衣服のゆとり量としては 腕の動作に影響すると思われる背中と袖付廻りにしぼり ゆとり量の無いものとそれらの組合せの5種類の衣服を作製した。撮影はこれらを着用した時の立位状態における静止時と動作時の計10葉とその基準となる裸体時の計12葉行った。実験衣に用いた布地は モアレ縞の最も出やすい白地でキュプラ100%の綾織を用いた。

結果 動作から見た場合 当然背中・袖付廻り共にゆとり量の多い方が 運動量も多いが 背中と袖付廻りでは 前拳・横拳では背中の影響がきつく 後拳においては両者の差は余りみられなかった 又モアレ縞から見た時はゆとり量の少ない程 衣服の間隙が少なく、特に最も少ない衣服着用時の上肢上拳では ゆるみ量の多い衣服に比較して 衣服のつりあがり具合が間隙状態からよく読みとれた。